

日々好日

(令和六年八月発行)

東京都知事選挙が終わりました、その結果は抜きにして、何んともふざけた選挙、前代未聞の選挙であった。曾て選管委員を経験した者ならずとも誰もが感じることはないでしょうか。

言うまでもなく選挙用ポスター掲示板にいかがわしい女性像や犬などの候補者とは何の関係もないポスターが掲示板を占拠したことである。それは或る政党が泡沫候補を乱立し、その候補者が本来使用すべき掲示板を他者に使用させたものだという。

この道義の片鱗すらも感じられない暴挙に取り締まる法がないという。このようなことを放置して法治国家といえるのでしょうか。とても正常な民主主義国家でのこととは思えませんし、恥ずかしいことである。

選挙は厳正中立に執行されなくてはなりません。民主主義国家は選挙がその根幹をなしています。首都東京でおきたことはやがて地方にも及ぶことを思えば、地方の選挙で同様の不祥事が起こることのないことを祈るばかりである。法的な整備も急いでほしい。

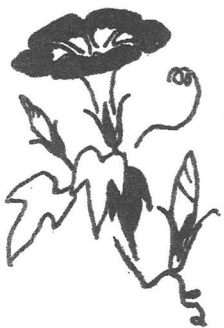
選挙に無関心もいただけませんが、こうした悪意に満ちた選挙妨害はなおいただけません。主義主張は節度をもつてしてほしい。

弘法大師のお言葉

「澆醜を礼儀に概んで陵遲を道徳に悲しむ」

(性霊集卷第十)

(礼儀に薄いことを痛み、道徳がすたれ緩むことを悲しむ)



千手観音立像 (春日厨子入り)

日々好日

弘法大師



お盆 ……人は何処から来て何処へ帰るのか…

梅雨が明けるとお盆がすぐにまいります。

お盆には精霊を我が家にお迎えして飲食をともにしお持て成しをして、お盆が済めば送り火を焚いて送り出すというのが、佛教渡来以前からの我が国の魂祭りの習俗であったという。

それは奉公に出ていた者も藪入りで我が家に帰ってのことであつたという。

だから、亡き人（精霊）は我が家からそんなに遠くない山に居て、平素はそこから遺族を見守ってくれているのだという素朴な信仰である。事実、葬儀での友人らの弔辞の中で「草葉の蔭で安らかにお休み下さい」というような文言を耳にしたものです。

ですから、精霊迎へは十万億土という遠い遠い極楽浄土に往生している精霊をお迎えするということではないことは確かでしょう。

また、生前の行為によつて死後に六つの迷いの世界に転生するという六道輪廻をしている精霊をお迎えするものでもないと思います。

精霊は子孫の心からの供養で祖霊となつて子孫を守る。とされ、反対に供養を怠れば怨霊となつて祟り殃をおよぼす悪霊となると信じられてきました。

大事にされた精霊は祖霊となり、穀霊、田の神、稲の霊ともなつて盆暮れに我が家にお迎えしていたということでもあります。

往生も輪廻もインドの信仰であり思想でもあるわけですが、中国では人を魂魄ととらえて魂が魄から分離するのが死だとされる。魄は身体で白骨をあらわし、魂は精神的な部分で心であり、死後、雲のあたりに漂うという。魂魄というのはそういうことをあらわす字だとされる。

山よりは遠いものの極楽浄土程に遠くでなく、適度の距離で遺族を見守るといふことでは理解しやすい。

以前、人は死ねばゴミになると言つて物議をかもした著名人がありましたが、土葬や風葬などと違つてゴミ感覚は少ないでしょう。

土葬ならともかく火葬に俯されれば輪廻も往生もなく無になつて、供養しないから怨霊となるといふようなことも、近代的な教育をうけた人ならずとも信じがたいことでしょう。

それでもなお肉親と死別して何事もなかつたかのように生きることは出来ません。頭の中で無になつたとして片付けようとしてもできないことです。愛とか恩を意識しない人間はいないということです。

この断ち難い肉親との恩愛の情を断ち切つて戒を受けて僧となつて修行して大日如来の浄土、密厳浄土に帰つていくというのが、真言宗徒の死後の行先である。

大日如来の浄土は宇宙に遍満しており、廣大無辺で阿弥陀如来の極楽浄土も弥勒菩薩の兜率天も、薬師如来の瑠璃光世界も観音の補陀落も大日如来の密厳国土に包摂されていると言つても過ちではないでしょう。

その想像を絶する大きさについていけず、日本佛教徒の多くは我が家の宗派に関わらず死ねば往生極楽を氣樂に考へているかのようにみえます。

それは、極楽往生が易行道だと喧伝されているからかもしれない。事実、阿弥陀如来の念仏者撰取不捨の願を信じる者は、善根功德を積むこともなく悪事を為すも懺悔も反省もなく償いもせず、お念仏さえお唱えすれば極楽往生ができるというの易行たる所以である。

反対にさしたる悪行もなさず、平々凡々の人生をおくり、時に善根功德を積んで善人ぶる人間は阿弥陀如来の本願力を信じないものとして辺土に留めおかれるという。

人は悪いことをしたと意識すれば反省懺悔し、ことによつては償いもします。だがこのような人間に対しては極楽の門を閉ざすともいわれています。念仏門は易行道とされるも常識人間には理解し難い点もあるようです。これに対して、弘法大師は「理趣経解題」で次のように述べておられます。

「もし善男善女ありて生死の苦根を断じ、菩提の妙楽に至らんと欲せばまず福智の因を積んで然る後、無上の果を感致せよ。

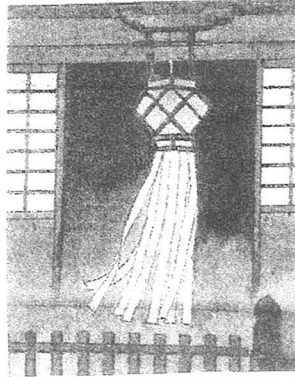
福智の因と言うは妙経を書写し深義を講思すれば、すなわちこれ智慧の因なり。

檀（布施）等の諸行はすなわちこれ福徳の因なり。よくこの二善を修し四恩を拔濟し、衆生を利益するときは、すなわち自利利他の功徳を具し速やかに一切智々の大覺を証す。これを菩提といひ佛陀と稱し、また眞実報恩者と名付く」

これは先の浄土門の教えとは対極をなしているといえるでしょう。人は何れを取捨するかということですが、ここで表題に戻れば、我々は何処から来て何処に行くのでしょうか。

父母恩重経には「宿業を因として父母を縁として」とあります。これは輪廻そのものの考えである。これに対して大師の教えは即身成仏です。

即身成仏というのは、「この身このままで仏になる」と理解されるものの、これは私たちは生まれながらにし



て仏のいのち（佛性）をいただいているのだということ根底になければなりません。

そうした、尊い存在である「わたし」であるということに気付き、これが本来の「わたし」であり、その「わたし」に帰るといのがお大師様の説かれる即身成仏である。

ここにいう仏とは大日如来のことであり、

梵字の子が

梵字のふるさと

立ちいでて

また立ち返る

梵字のふるさと



大日如来

この梵字とは大日如来をあらわす種字です。大日如来の子が大日如来の性分を備えているというのは当然のこと、凡夫というのはこの尊い仏の性分を生まれながらに備えもつていっているということを理解せず、信じようもしない者のことなのです。

輪廻するとか、往生するとか、また梵字の世界に帰るのは死者の何なのでしょう。火葬したのですから、最早このままの身体でないことは明白で、それは何人も覆すことはできません。

「こころ」とか「たましい」であるとしか考えつきません。死者の生前中の心というか、精神性が死後も生者の生活に大きな影響を及ぼすということですが、

大日如来の梵字の世界は生成輪廻するものではなく、無始以来常住し続けているものなのです。

私たちは大日如来の衆生済度の命を受けて此の世に生を受け、つとめを終えて、大日の世界に帰っていくのだと教えられているのです。

境内には三つの句碑があります。

入る月を 此処に残して 梅の花 (上牧清我)

(岩国武門連俳諧の宗匠十一代文台、昭和九年十二月十六日、一周忌に門弟らにより建立)

いく度も しぐれし月の 庭の立つ (森白象)

(高野山真言宗管長 森寛紹大僧正、昭和六十年二月二十八日建立、管長のご来駕あり)



(大竹市在住・畠中巨骨、墓地近くに建立)

茶庭には高さ一坪ばかりの時代を感じさせる手水鉢があります。その鉢には文政十一年戊子年十二月吉日と陰刻がされています。

これは、さる素封家が上田宗箇より譲り受け、約二百年を経て上田流を継ぐ弟子らによって先の年号を刻んで奉納されたものと伝えられている。

(上田宗箇は尾張星崎の生まれで、信長の武將丹羽長秀の侍兒となり、長秀没後秀吉に抜擢され、利休の茶を学び古田織部と親交を深め、大徳寺で「宗箇」を授かる。)

後に上田家は広島藩の国老職を務めた。宗箇は吉川家に「みみずくの手水鉢」をもたらしたことはよく知られている。

こうしたご縁で広島の上田邸を訪れたこともありました。尚、万徳院の茶室は織部流の茶室だと伝えられていました。



(新築の山門・寺号石標)

(旧山門・黒く塗られた土塀) …本尊月縁日参詣者…



あとがき

昨年より十九日も遅い梅雨入りでした。梅雨の合間の暑さにも何とか抗していますが、夏本番が思いやられる尋常でない暑さである。

この梅雨の合間に檀家さんのお一人が、二十箇ものプラタンにいろいろな草花を植えて、参道の石畳の両側に並べていただきました。こうした心遣いは嬉しく有難いことです。

寺院環境が少しずつでも良いほうに向かっているのはみ仏もお喜びである。その境内でひとときわ元気が良いのは蘇鉄ですが、その蘇鉄のなかでも一番大きなものと、その枝？に花をつけました。



十年から十五年経ないと花を咲かせないといわれるのに数年前にも花を咲かせています。生命力旺盛だということでしょう。それにあやかり元氣でお盆を迎えたい。遠出をすることが少なくなりましたが宗派の山口支所下の会合で、防府には車で、山口には新幹線で出かけました。若い住職らにいたわられながらも、そのお礼の意も込めて檄を飛ばしたつもりですが、彼らの胸にひびいたかどうかは定かではありません。

発行者

高野山真言宗

寶池山

龍門寺

吉岡光昭



十二面

千手千眼

觀世音

施無畏の御手に

すがれもろ人



岩国市通津 3634 番地 3

☎740-0044

高野山真言宗

寶池山 龍門寺 発行

☎岩国 (0827) 38-4611 番